

# 財政学

1  
講義ノート5

佐藤主光(もとひろ)

一橋大学経済学研究科・政策大学院

# 外部經濟・不經濟

# 外部性とは？

- 外部性＝家計・企業の選択(消費・生産)が取引に関わらない「第三者」の厚生・利得に直接的に影響
- 例:公害、環境破壊、予防注射、研究開発
- 留意:第三者が他人とは限らない⇒「自身」に跳ね返ってくる外部性＝地球温暖化問題

	第三者への影響	例
外部経済・外部便益	プラス	予防注射、研究開発
外部不経済・外部費用	マイナス	公害・環境破壊

## 参考：経済学の視点

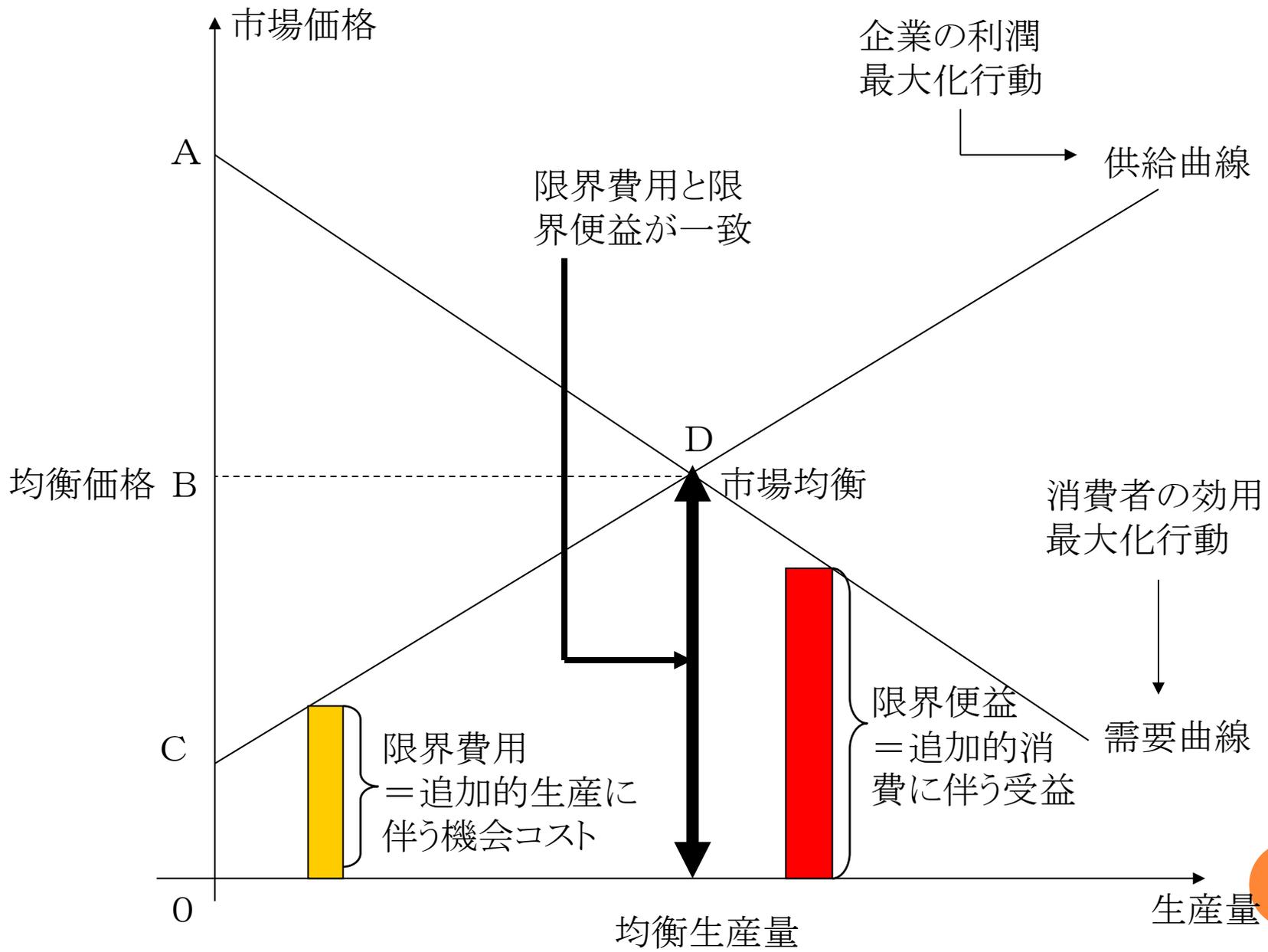
- 当事者(例:企業)の視点と経済全体(社会厚生)からの視点

⇒ 当事者の利益(厚生)の追求が社会的な利益(厚生)の増進に繋がるとは限らない

- 当事者の利益  $\neq$  一国の利益

└───────────▶ 「外部性」(便益・コスト)

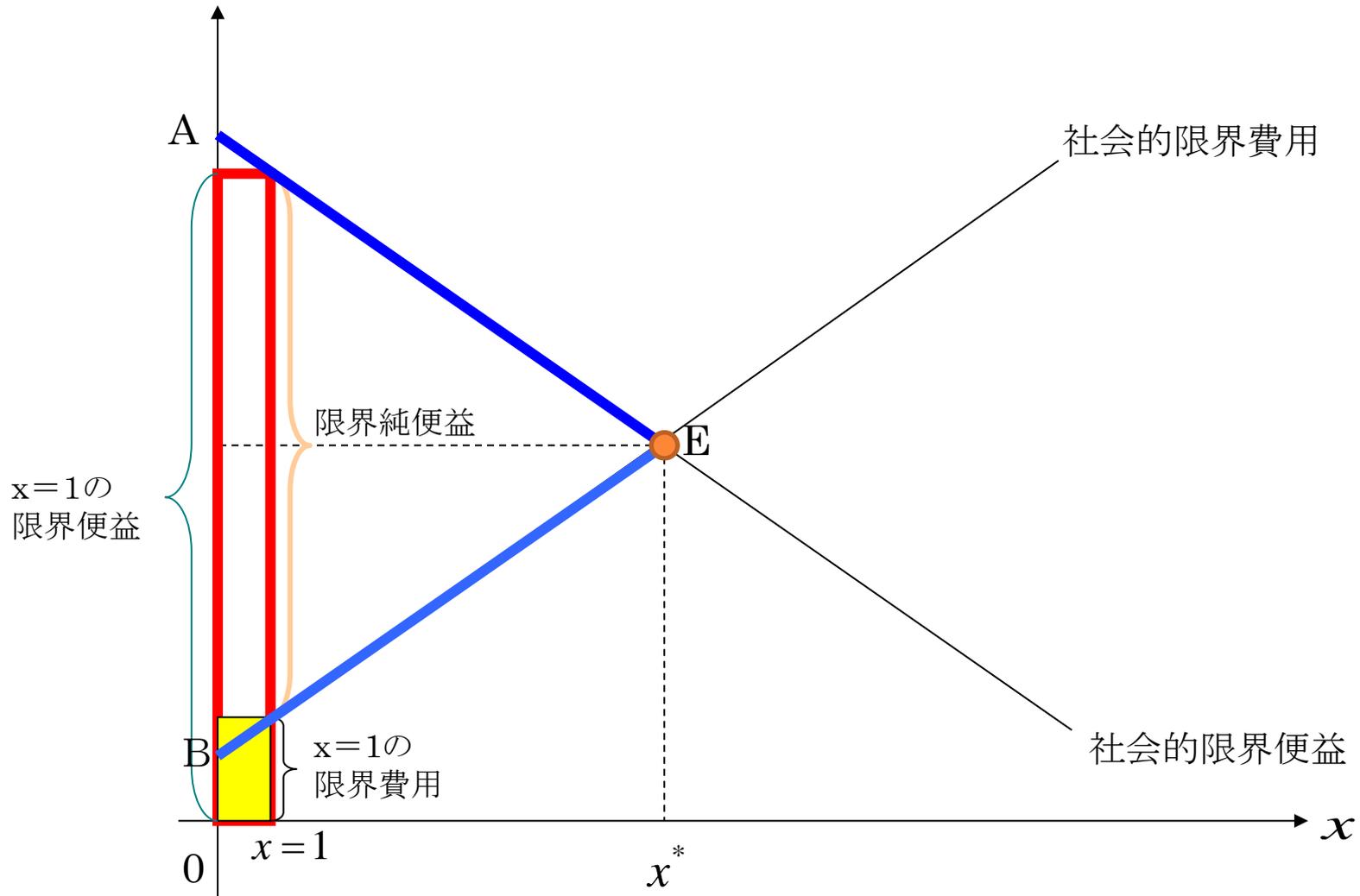
- 例:公害・環境破壊、産業廃棄物の押し付け合い(NIMBY)、補助金獲得競争

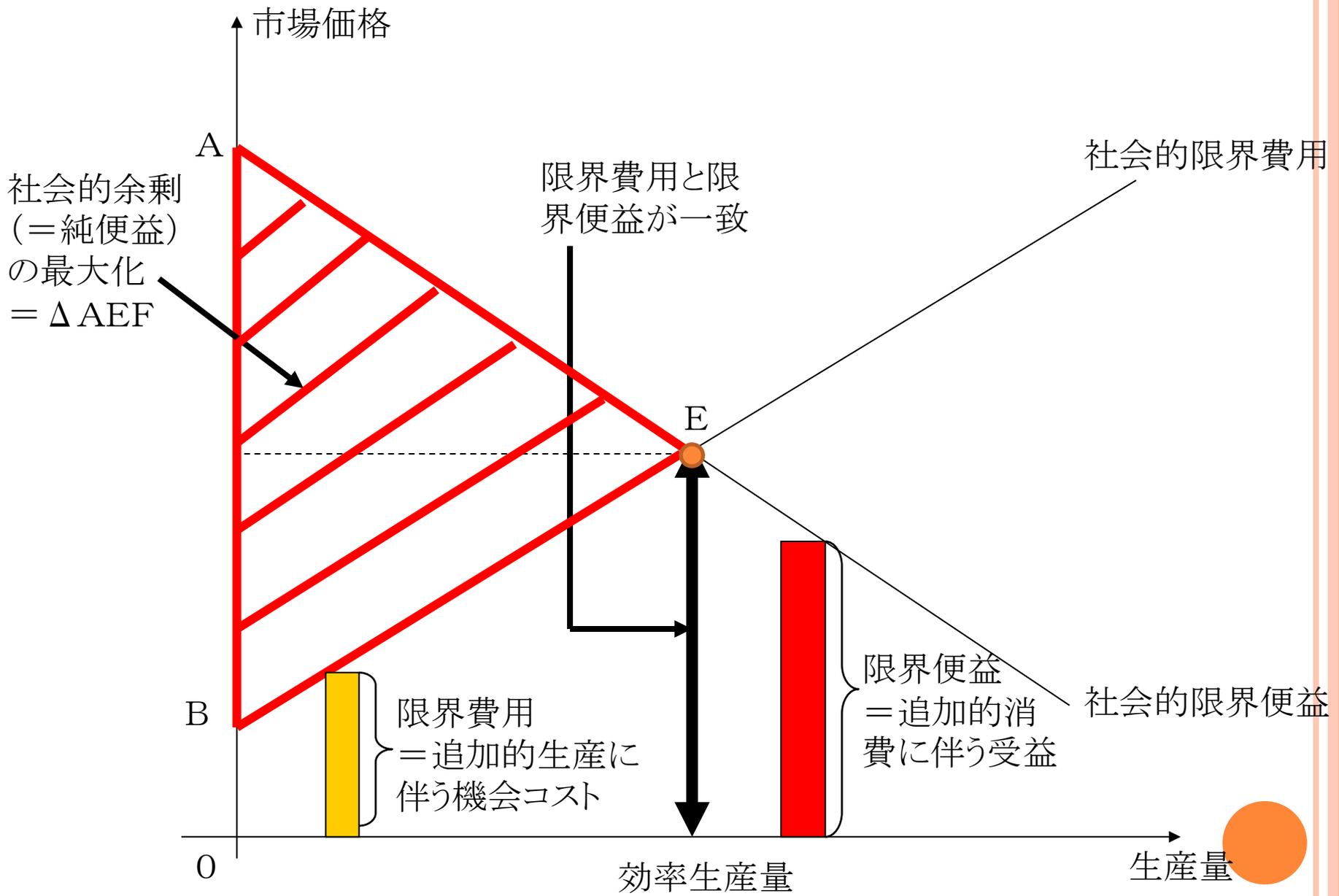


# 効率性:再論

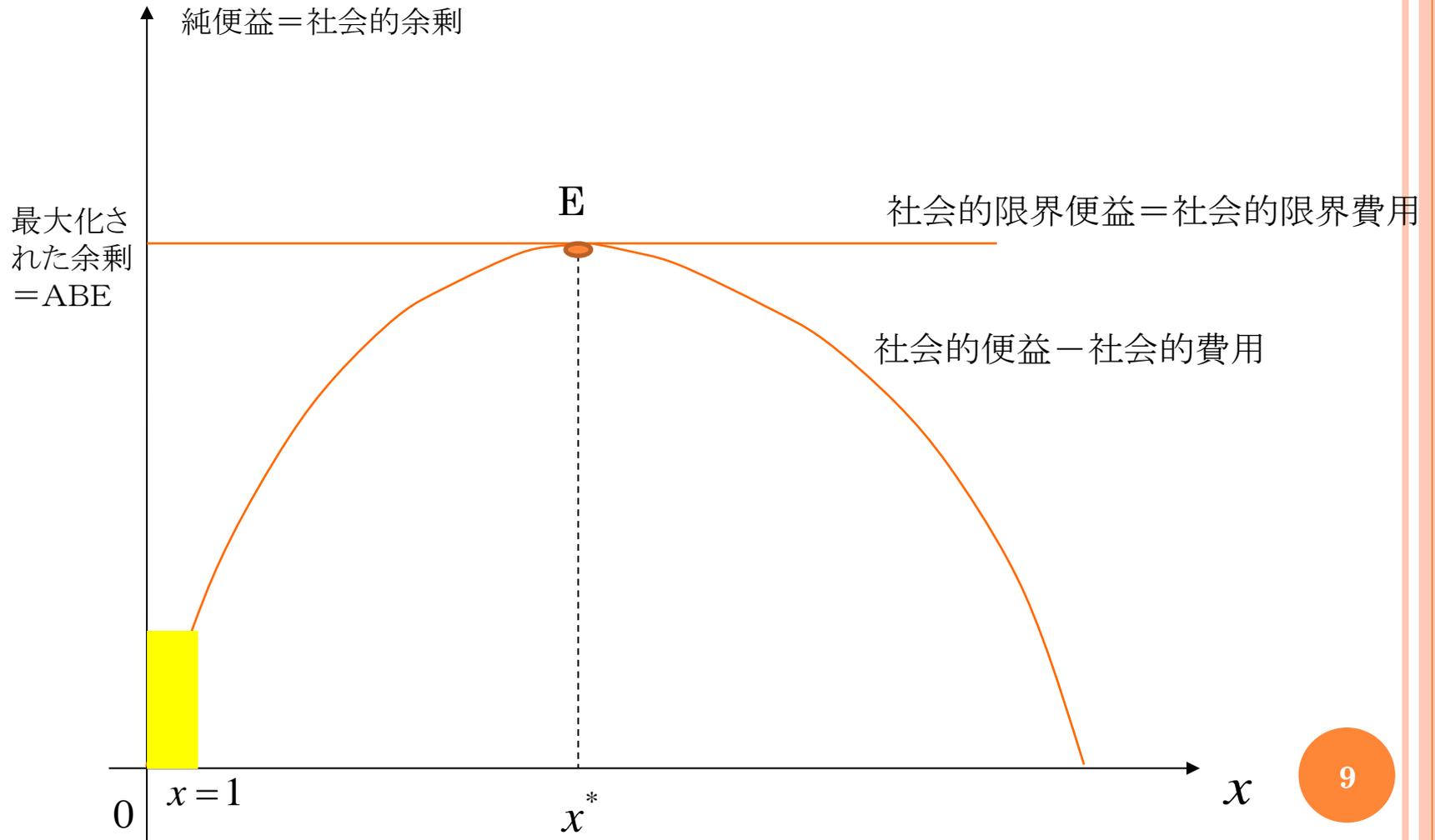
- 「部分均衡分析」の枠内で効率性を考える
- 効率性＝パレート最適性⇒「社会的余剰」の最大化
- 社会的余剰＝社会的便益－社会的(機会)コスト
- 社会的余剰最大化の必要(前提)条件:  
社会的限界便益＝社会的限界費用
- ポイント:
  - －社会的限界便益 ≠ 私的(当事者が受益する)限界便益
  - －社会的限界費用 ≠ 私的(当事者が受益する)限界費用

# 効率的資源配分(その1)





# 効率的資源配分(その2)

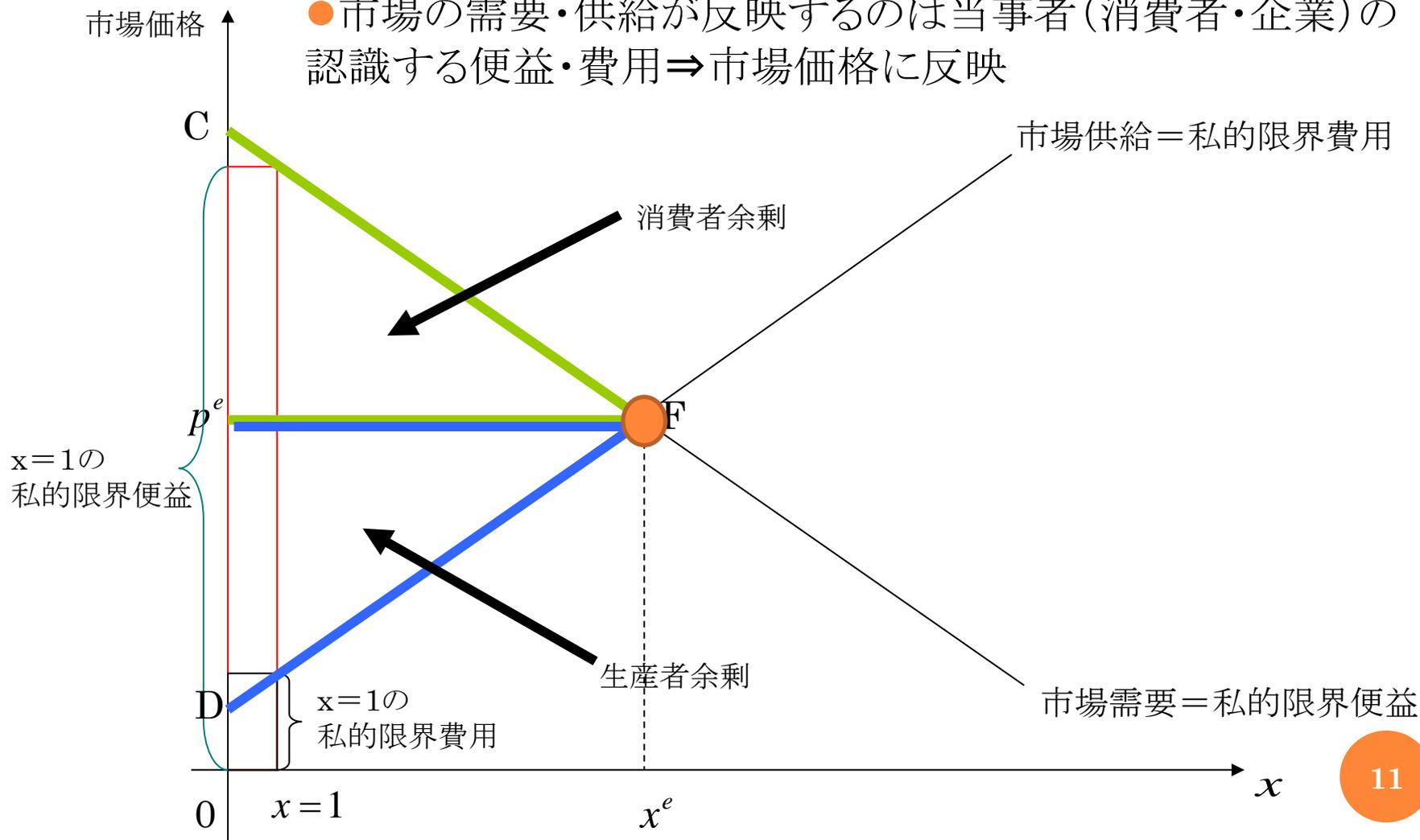


# 「市場均衡」対「効率的資源配分」

- 厚生経済学の第1基本定理:市場が理想的に機能していれば、均衡はパレート効率。
- 留意:
  - (1)均衡が効率性と一致するのは結果であって仮定(前提条件)ではない。
  - (2)均衡は恒等的に効率と同じわけではない
- 均衡条件:私的限界便益 = 市場価格 = 私的限界費用
- 外部性の存在
  - ⇒社会的便益・コストが私的便益・費用から乖離
  - ⇒均衡条件 ≠ 効率条件
- ポイント:市場取引の当事者によって外部性は自身の取引に係るコスト・便益とは認知されない

# 市場均衡

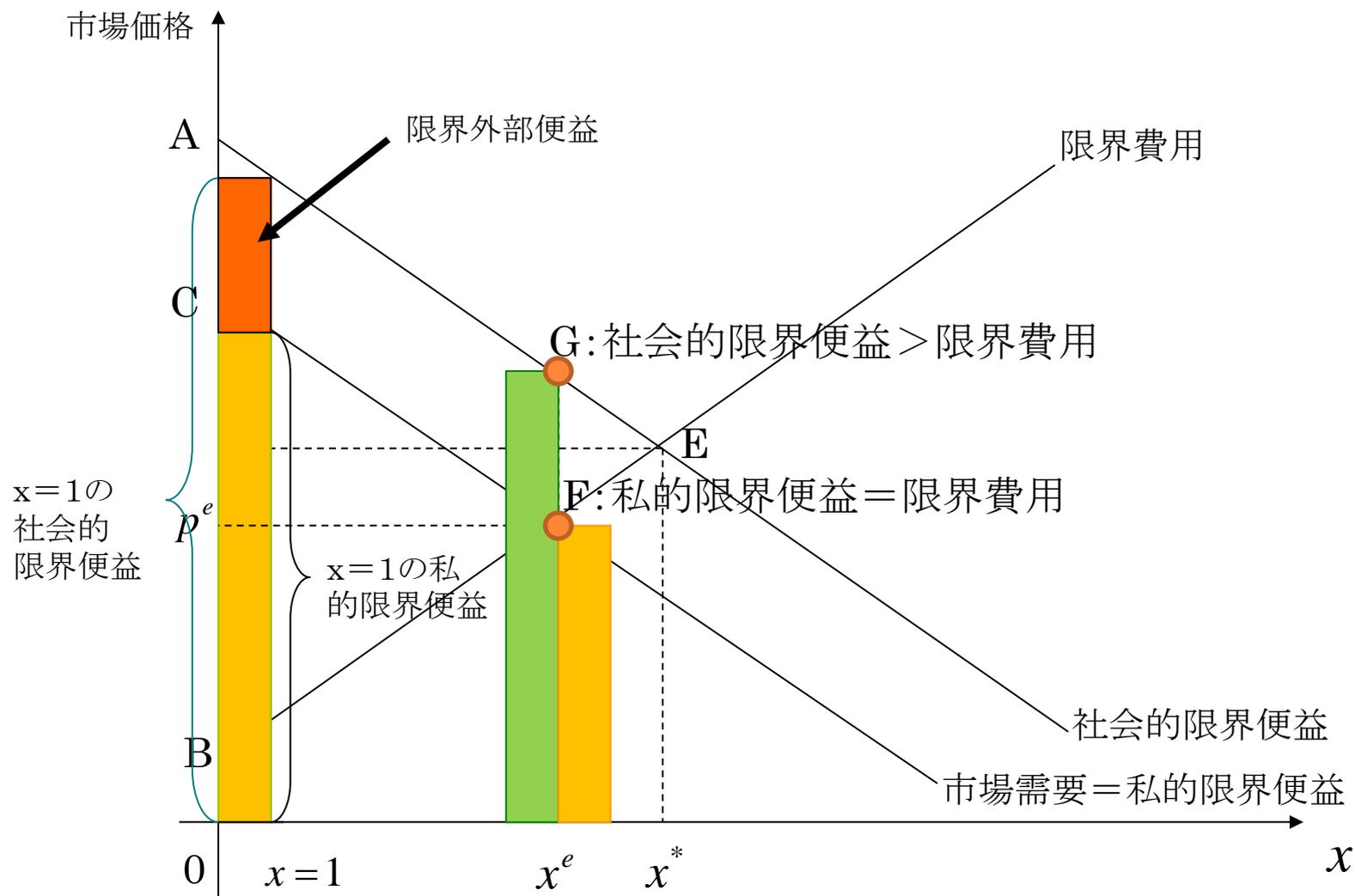
● 市場の需要・供給が反映するのは当事者(消費者・企業)の認識する便益・費用  $\Rightarrow$  市場価格に反映



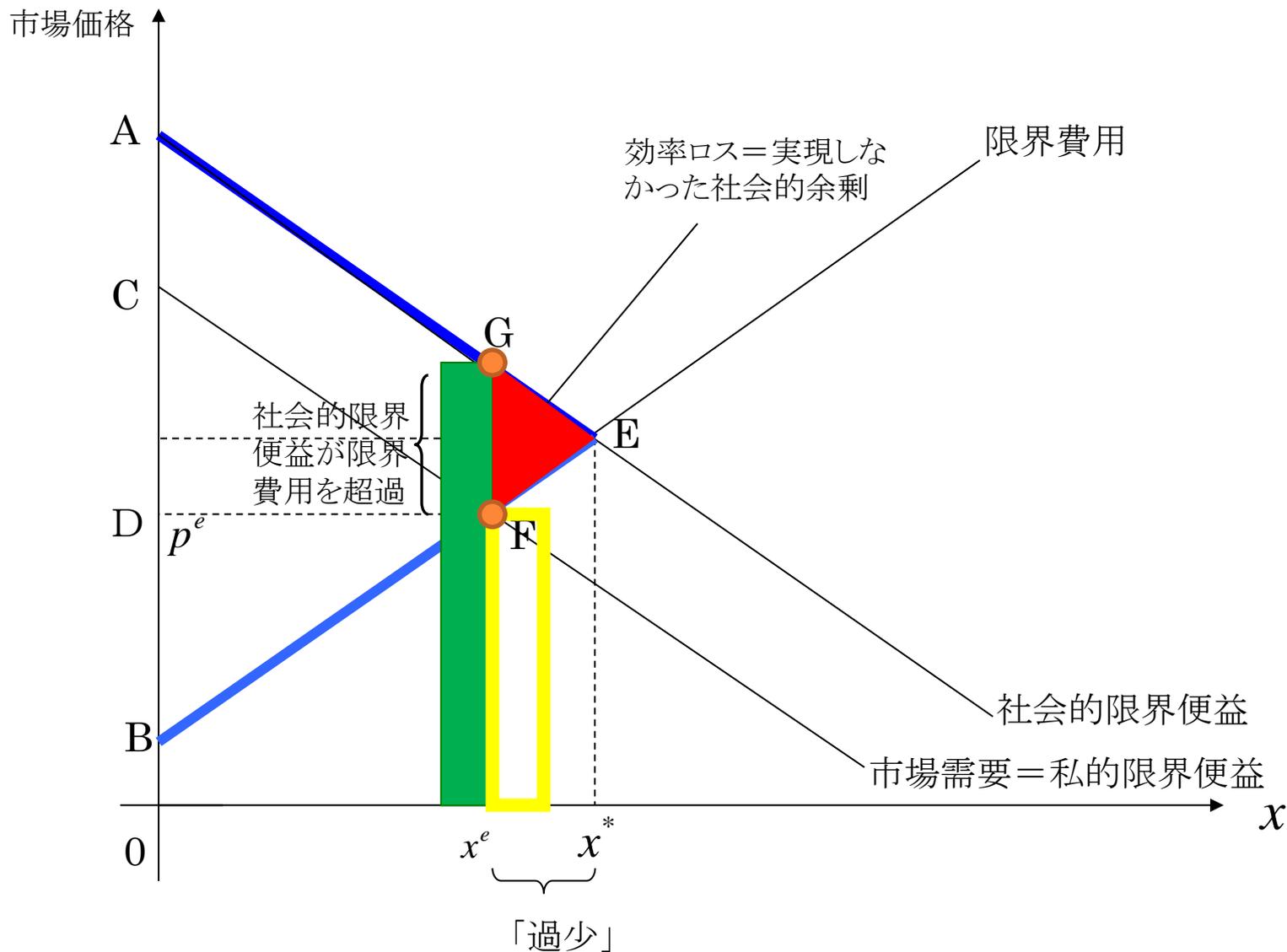
# 外部便益・外部費用

	外部便益	外部費用
乖離	外部便益 = 社会的便益 - 私的便益	外部費用 = 社会的費用 - 私的費用
市場価格の「歪み」	便益を過少評価	コストを過少評価
帰結	<u>過少生産</u>	<u>過大生産</u>
例	予防注射の摂取、教育(？)、研究開発(R&D)	エネルギー消費(地球温暖化)、公害

# 外部経済・外部便益(その1):

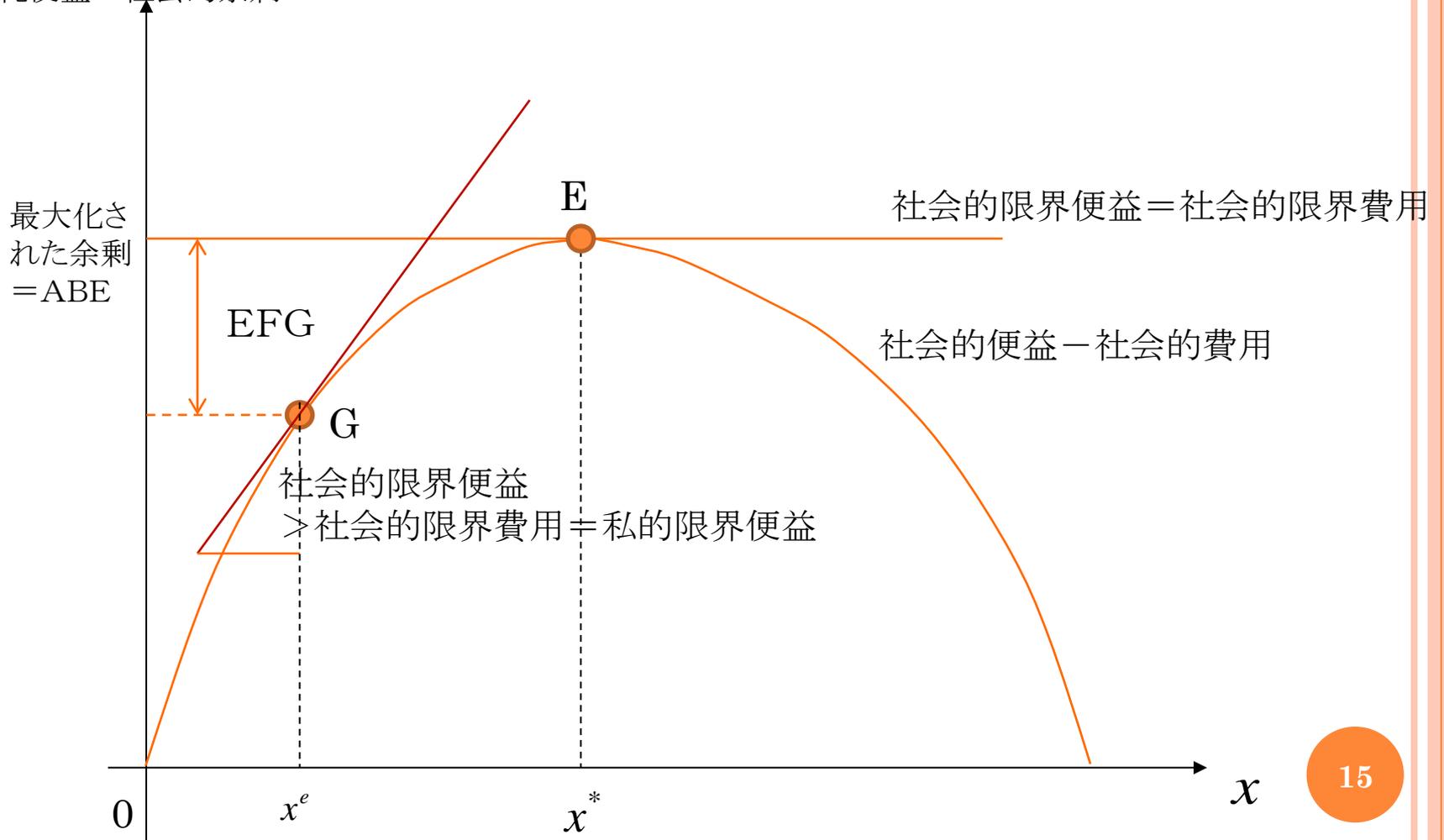


# 外部経済・外部便益(その2):



# 外部経済・外部便益(その3):

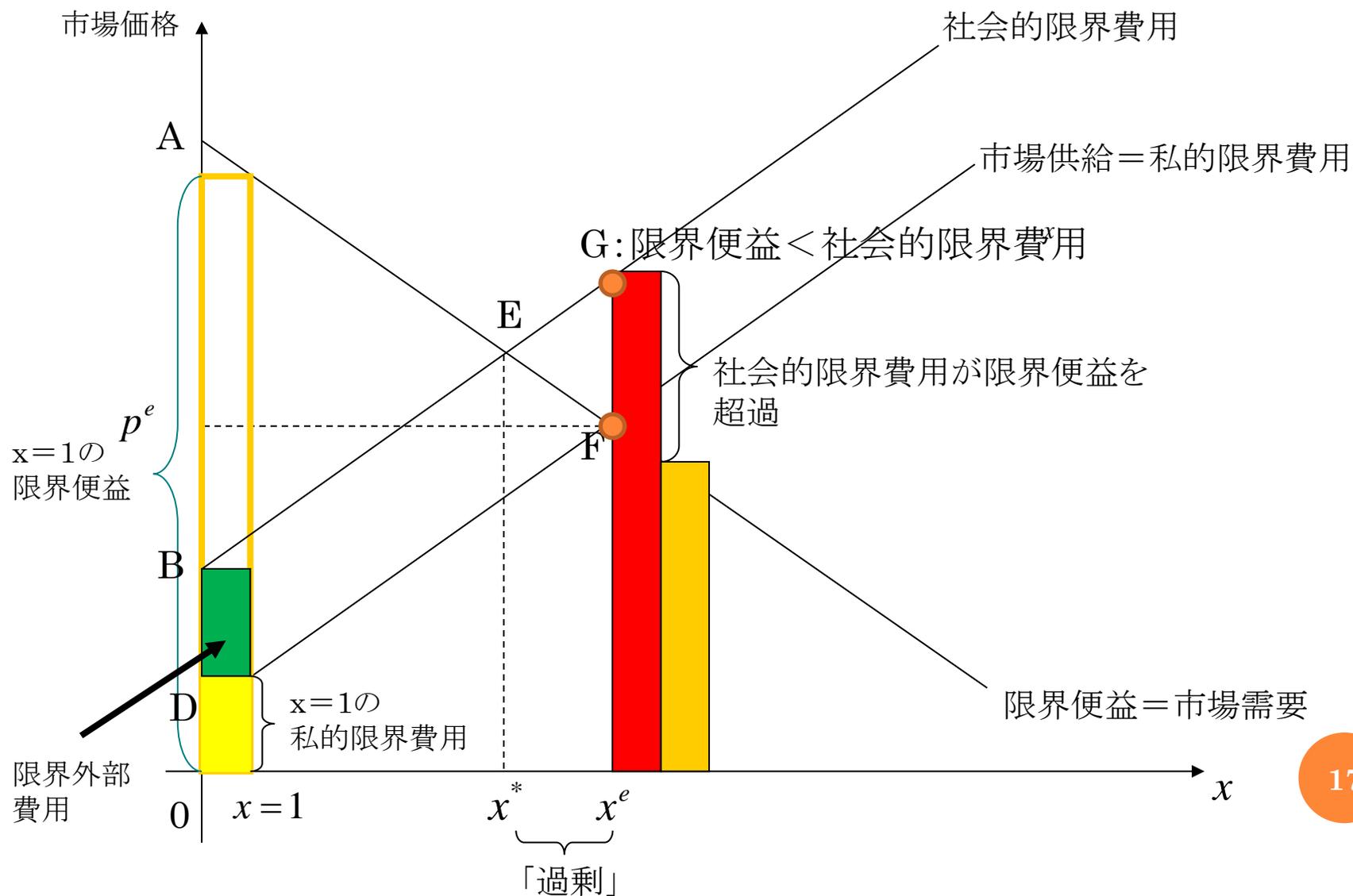
純便益 = 社会的余剰



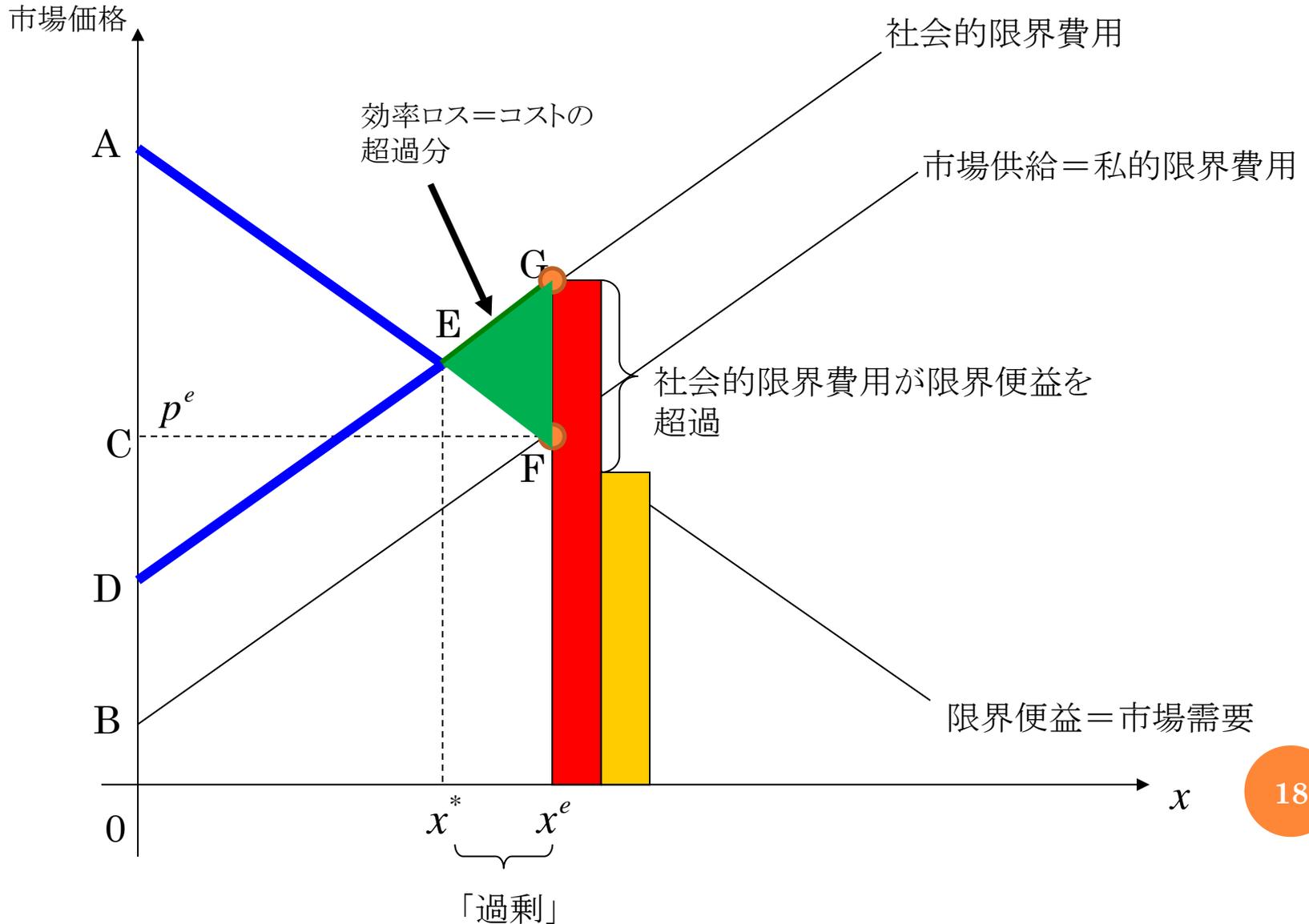
# 外部経済による非効率

	効率水準	均衡水準	乖離
社会的余剰 = 社会的便益 - 社会的費用	ABE	ABFG	EFG
		$CD^*F$ = 消費者余剰 $BDF$ = 生産者余剰 $ACGF$ = 外部便益(合計)	
生産量	E点	F点	過少

# 外部不経済・外部コスト

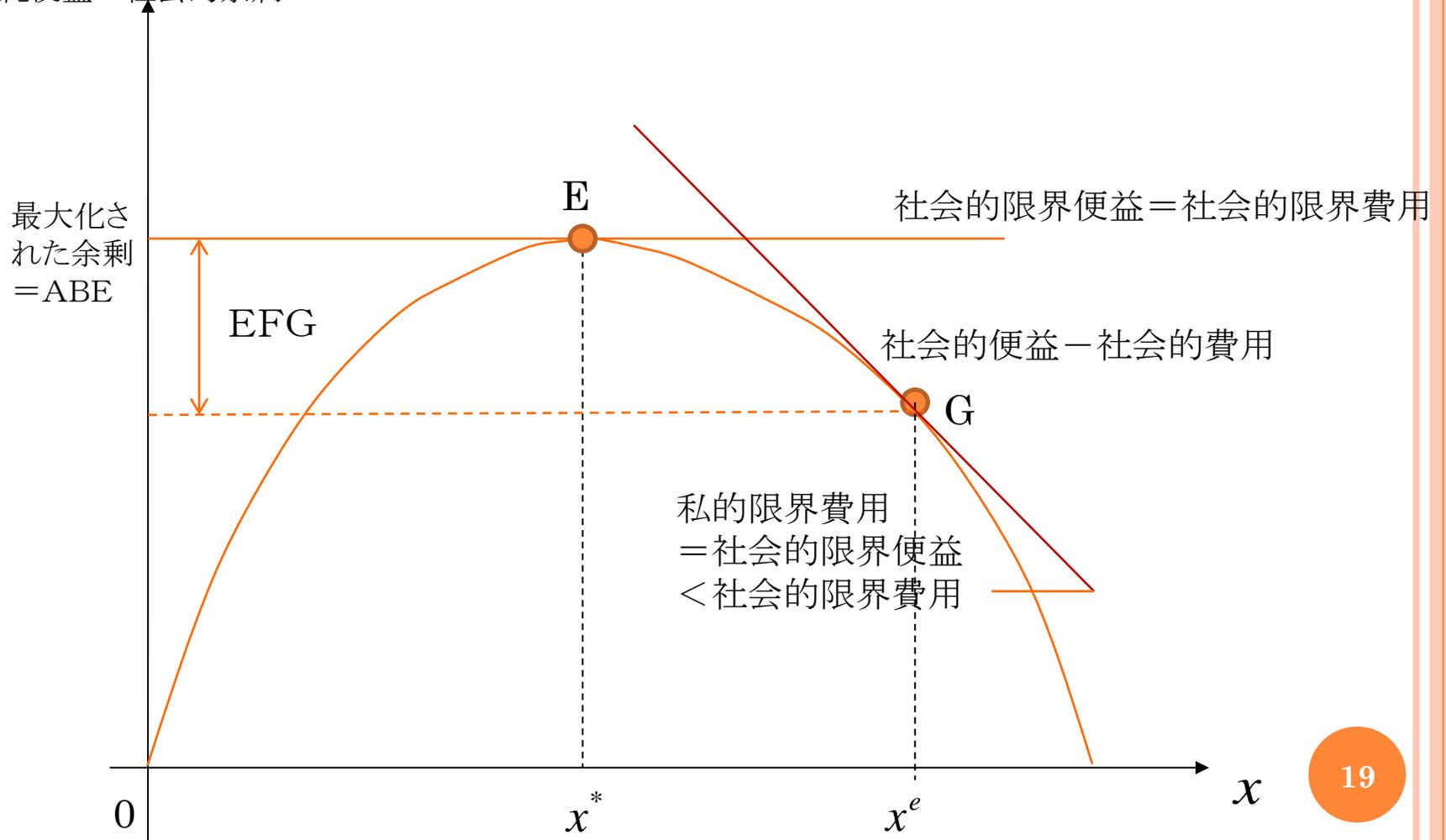


# 外部不経済・外部コスト(その2)



# 外部不経済・外部コスト(その3)

純便益 = 社会的余剰



# 外部不経済による非効率

	効率水準	均衡水準	乖離
社会的余剰 = 社会的便益 - 社会的費用	AED	AED - EFG	EFG
		ACF = 消費者余剰 BCF = 生産者余剰 BDFG = 外部費用(合計)	
生産量	E点	F点	過少

# 外部性の帰結

- 市場需要・供給が社会的便益・費用を反映しない＝市場価格の情報伝達機能に「歪み」
- 市場均衡  $\neq$  効率的資源配分  $\Rightarrow$  ただし、公害ゼロが最適ではない！
- 外部便益(正の外部性): 均衡産出量  $<$  効率的水準  $\Rightarrow$  (効率水準に比して)「過少」生産
- 外部費用(負の外部性): 均衡産出量  $>$  効率的水準  $\Rightarrow$  (効率水準に比して)「過剰」生産
- ポイント: 過剰・過少は効率水準との相対評価

# 外部性は問題か？

- 全ての類の「外部性」が問題なわけではない。
  - －外部性＝市場の失敗ではない！
  - －外部コスト＝迷惑コストではない。
- ポイント:外部性は効率性＝社会的余剰の最大化の観点からの評価
- 「限界的」外部効果と「非限界的」(Infra marginal) 外部効果
  - ⇒市場均衡で評価して外部性が発生しているか否かの判断が必要
- 「金銭的」外部効果と「技術的」(非金銭的)外部効果
  - ⇒市場を介した外部効果か否か

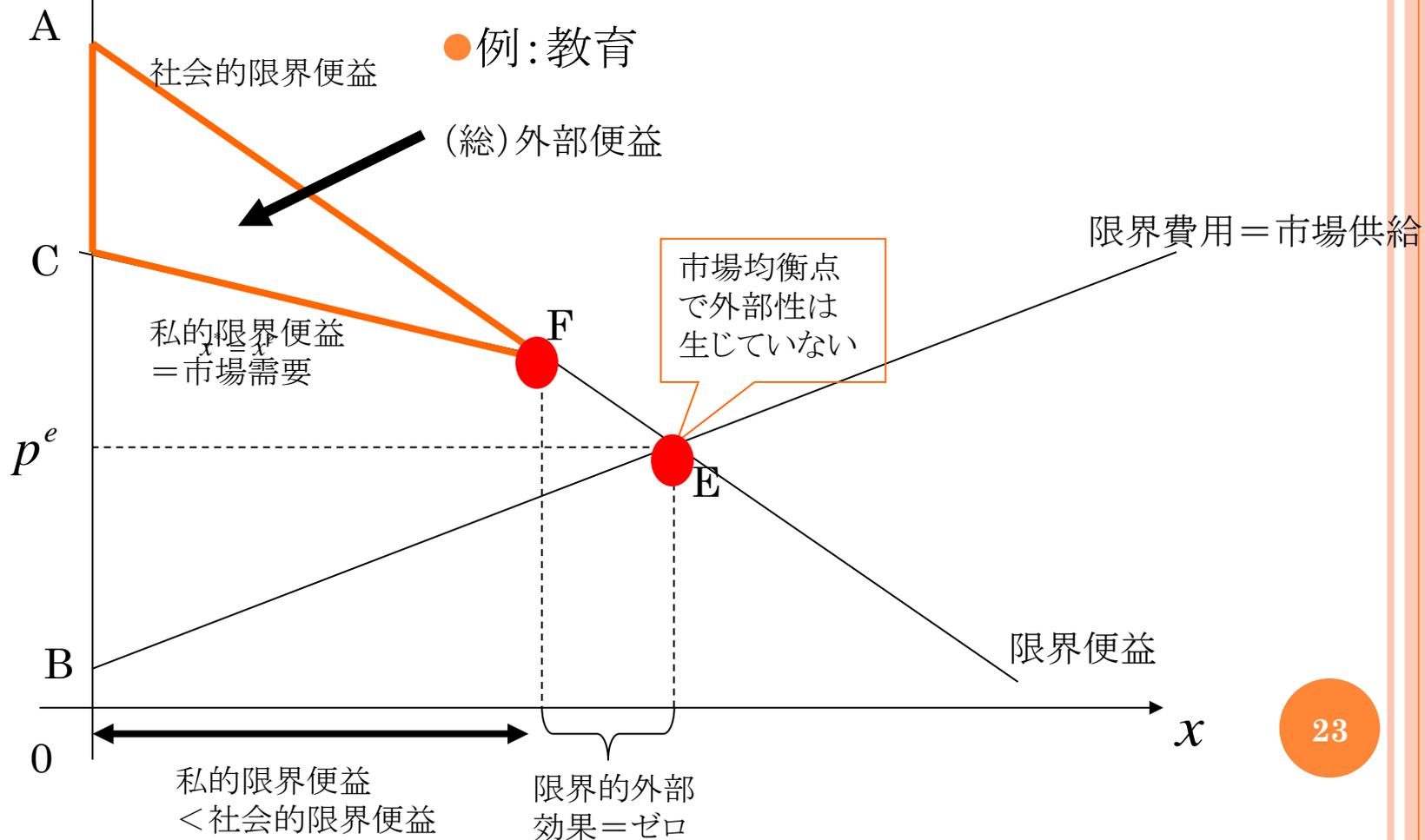
# 非限界的外部効果

● 均衡水準では「限界的」外部効果=0

⇒ 均衡 = 効率水準

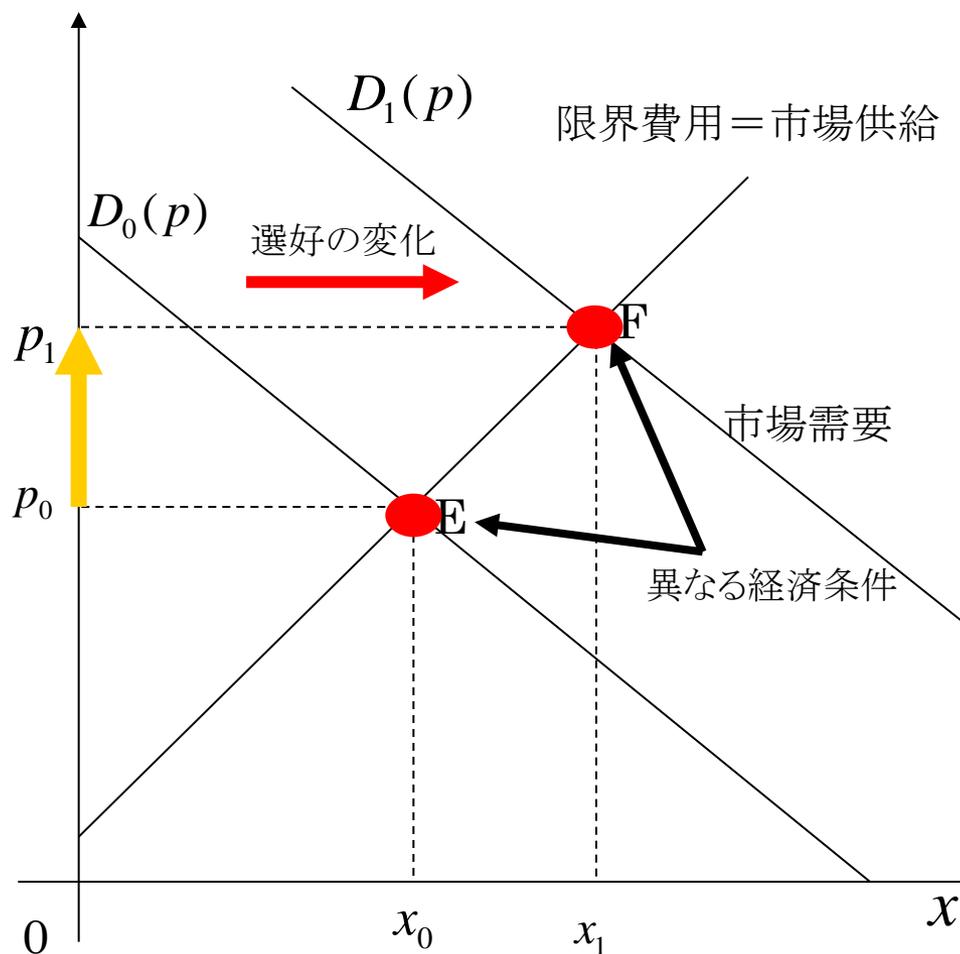
● 例: 教育

市場価格



# 金銭的外部効果(その1)

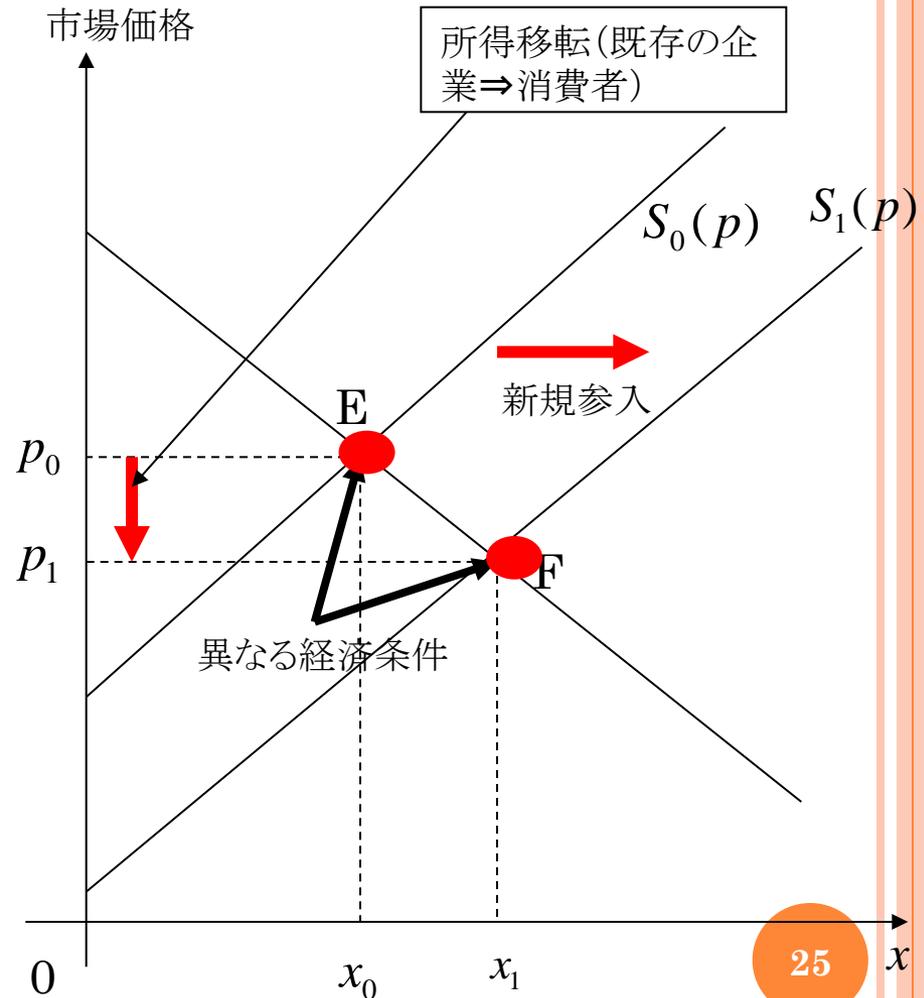
市場価格



- 「お米ブーム」到来⇒米の消費増加⇒需要曲線の右方シフト⇒市場の均衡価格の上昇⇒これまで米を消費してきた消費者の損失・生産者の利益増
- 消費者の「気まぐれ」(ブーム) = 選好の変化は他の消費者・生産者に外部効果をもたらさず⇒非効率?
- 新しい市場均衡も新しい経済条件(お米ブーム)の下で効率的
- 市場均衡は経済環境の変化に伴い変化=この変化は非効率の原因にはならない!

# 金銭的外部効果(その2)

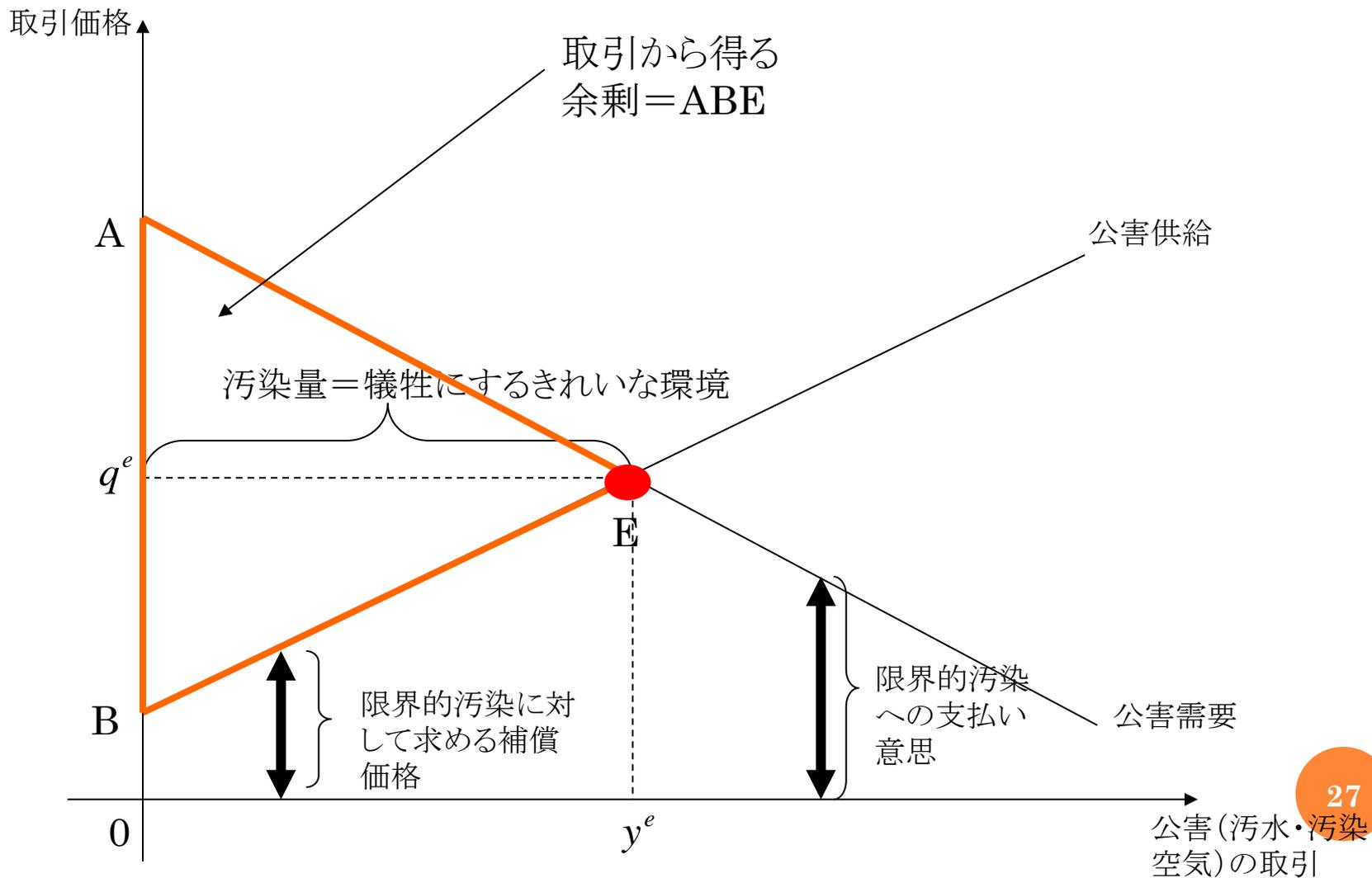
- 市場への新規企業の参入⇒競争の激化⇒価格の下落⇒「既存」の企業の利益現象・消費者の利益増進
  - 新規参入は既存企業・消費者に外部効果をもたらす⇒新規参入は非効率？
  - 新規参入後の市場均衡も「効率的」
  - 例: 大型店舗の出店と地元商店の損失
- ⇒ 既得権の損失は「非効率」を意味しない。



# 何故、外部性は解消できないのか？

- 外部性は「市場の失敗」
- 「市場の失敗」⇒市場が健全に機能しないこと
- 市場が健全に機能すれば「失敗」は矯正可能
- 外部性を取引する市場の整備？ ⇒排出権取引市場(後述)
- 市場取引がうまくいかない理由＝「取引費用」
- 取引費用
  - －「所有権」の欠如＝空気・水は誰に帰属するか？
  - －情報の非対称性＝外部便益・コストの程度が測れない

# 外部性の取引



外部性あれこれ

# ネットワーク外部性

- 「ネットワーク外部性」  
＝「規格」選択にかかわる外部性

- 互換可能性

- 他の消費者の利用する規格の財貨(例:PC, DVDなど)を  
自分も利用

⇒各消費者の選択が他の消費者の選択に影響＝外部性

- 国際的規格競争

⇒劣った技術が市場を席卷する可能性

- 惰性 (Inertia)

- 模倣 (Bandwagon) 効果

# 隣人効果

- 「隣人効果」(Peer effect)  
= 周囲の環境によって自分の選択・選好が影響を受ける
- 例: 友人の影響、親の影響  
⇒ 喫煙行動、麻薬・アルコール依存症等々
- 実証分析: 親の喫煙行動が子どもの喫煙に影響
- ネットワーク外部性、隣人効果の政策的含意  
⇒ 微小な(限界的)政策変化(税・補助金、支援、罰金等)・漸進主義的改革は効果を持たない
- 例: 低所得層の子供への支援  
⇒ “Big Push”型政策・ピックアップ・アプローチ